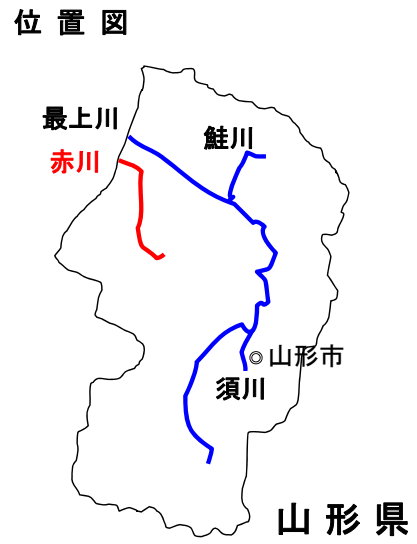


赤川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

～放水路の機能を最大限に活かし、鶴岡都市圏を水害から守る治水対策の推進～

○ 令和2年7月豪雨や令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、赤川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、赤川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した観測史上最大の昭和15年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



■河川における対策

対策内容 堤防整備、河道掘削
床止工改築 等



凡例

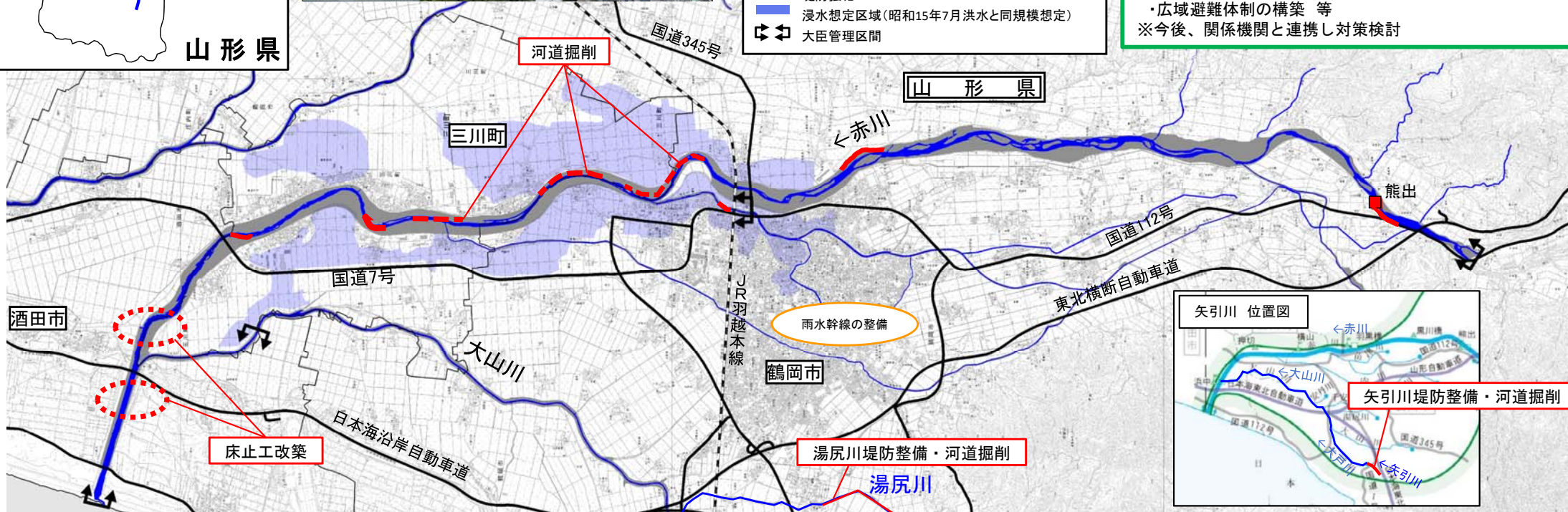
- 河道掘削
- 堤防強化
- 浸水想定区域(昭和15年7月洪水と同規模想定)
- ↔ 大臣管理区間

■流域における対策

- ・庁舎の耐水化等の取組
 - ・利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、山形県、東北電力(株)など)
 - ・下水道等の排水施設整備
 - ・下水道施設(処理場)の耐水化
 - ・適正な土地利用の規制誘導 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト施策

- ・簡易型河川監視カメラの設置
 - ・想定最大規模の洪水を想定した排水計画作成
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
 - ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
 - ・関係機関と連携した洪水対応演習の実施
 - ・支川氾濫や内水等の関係機関連携調整会議の実施
 - ・広域避難体制の構築 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。